

第40回交換学生相互受入・派遣事業

ベルビュー市交換学生としてダリルさん、エバンさんご兄弟が来日されました。八尾市交換学生の木下さん、藤田さんのご家庭にホームステイされ、充実した毎日を過ごされました。

約3週間のホームステイのあと、交換学生の皆さんと一緒に渡米し、ダリルさん・エバンさんのご家庭でホームステイしました。

八尾市滞在期間：2019年7月7日～7月29日

ベルビュー市滞在期間：2019年7月29日～8月22日

八尾市交換学生：木下 花音(かのん)さん、藤田 理瑚(りこ)さん

ベルビュー市交換学生：Daryl Glatzさん、Evan Glatzさん



交換学生からの報告

木下 花音

小さなころから英語が好きで、英語のテレビを見ては歌って踊っていました。勉強になると難しいものの、小学校の時参加した国内での英語キャンプでは、自分の気持ちを英語で相手に伝える体験から英語がコミュニケーションツールだと実感しました。

日本では毎日大変忙しかったのですが、楽しく過ごしてくれて、日本の料理、特に祖母が作る料理をおいしいおいしいと食べてくれました。アメリカでは私に最高の思い出になるよう楽しませるといってくれました。

アメリカではすべてが大きく、自然が多く、そこでも毎日のように観光・ハイキング・ショッピングなどに皆で出かけました。ダリル君の家族はご両親、4人兄弟の大家族で、妹のメーガンちゃんの日本の友人親子も迎え、総勢10人で本当に楽しく、私たちはまるで7人兄弟のように過ごしました。アメリカでは英語を使い、いろいろな人とコミュニケーションを取るというのが留学の目的でしたが、いざ話すとするととても緊張し、もっともっと単語を知っていればと反省ばかりでした。

私の将来の夢は医療関係、特に乳幼児に関わる仕事に就くことです。ダリル君のお母さんが病院で妊婦指導をされていると聞き、これは運命だと思いインタビューや病院見学もさせてもらいました。この留学の経験を活かし将来の夢をかなえられるよう勉強を頑張りたいと思います。

交換学生からの報告

藤田 理瑚

アメリカに渡り、シーフェスティバルというベルビュー市で1年に一回開かれる大きなイベントに参加したり、ホストファミリーの家では本来11月にするサンクスギビングを開いてもらい、近所の子供達とチェコの留学生を含めパーティーをして、一緒に遊んだり、本当に毎日が思い出の日々になりました。

町の様子は、リンゴやブラックベリーなどの果物の木が沿道にたくさんあったり、電車のようなバスが走っていたり、車社会だなと感じさせるものが多かったりと、歩いているだけでも色々な発見がありました。

また、お店に目を向けると、アメリカだなと思わせる飴のお店、とてもカロリーが高いお菓子、多様性を受け入れているところならではの、ロシア、ドイツ、中国などの専門店のスーパーマーケットなどたくさんありました。また、ベルビュー市のショッピングセンターでは、お寿司の形の靴下、和食の食品サンプル、日本の飴、ガムなどを見つけることができ、アメリカの良さを感じるとともに、日本の良さをも感じる事が出来ました。

今回の留学で考え方や価値観の交流もできたと思っています。交換学生のエバン君とその友達と、自分達の将来について話し合う機会がありました。そこで私の課題点を見つける事が出来ました。その一方で、もっと大勢の人にしゃべりかける予定だったのですが、自分に自信がなく、十数人しか、しゃべりかける事が出来ませんでした。

今回の留学で私の将来の夢である外交官になるためにすべきことを見つける事ができたので、今まで以上に英語を勉強しようと思います。